

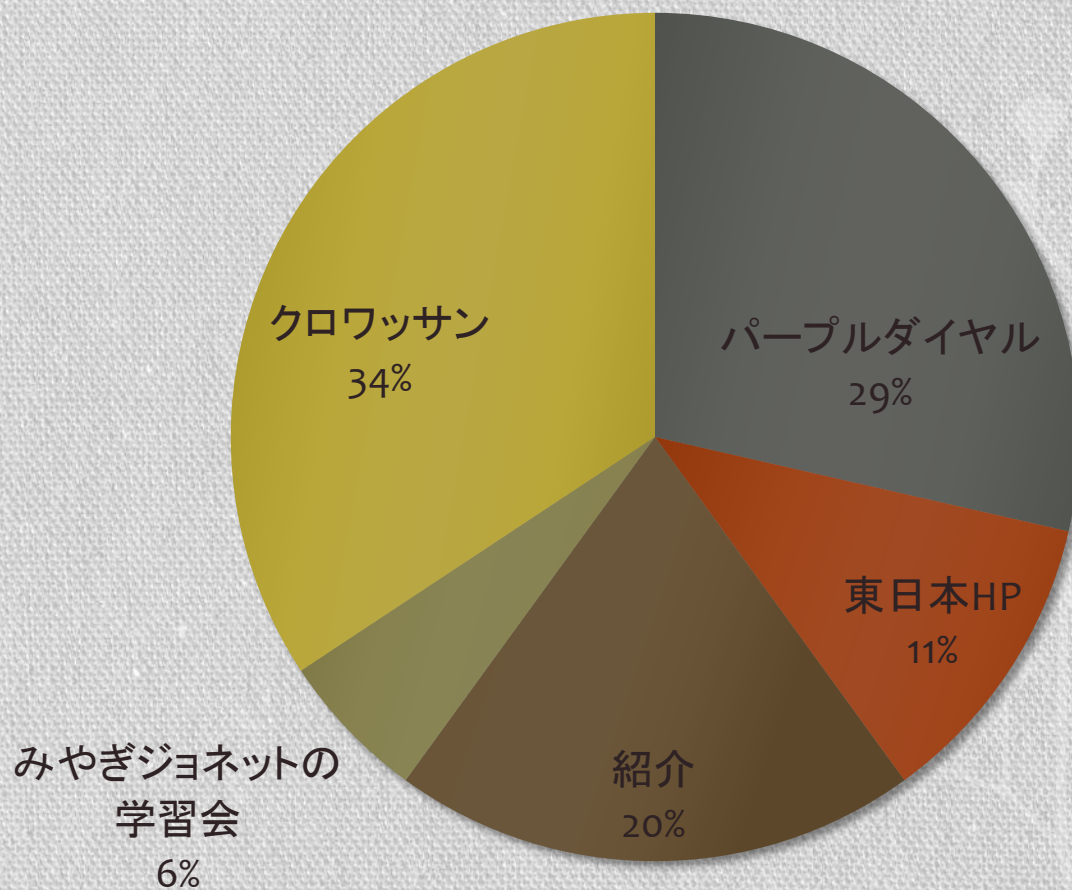
支援チーム報告

「とにかく見ておいて」

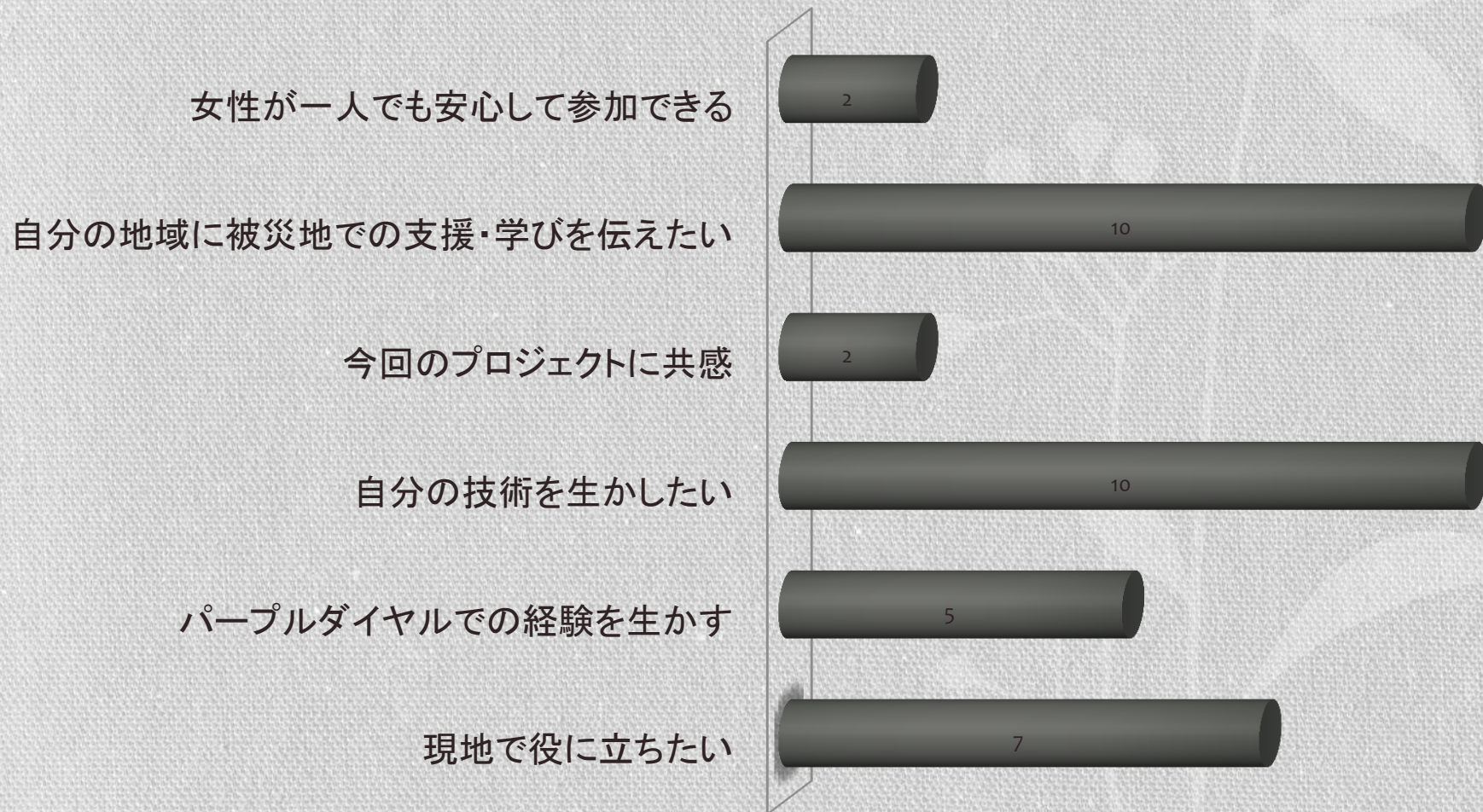
「被災地への
ボランティア派遣」



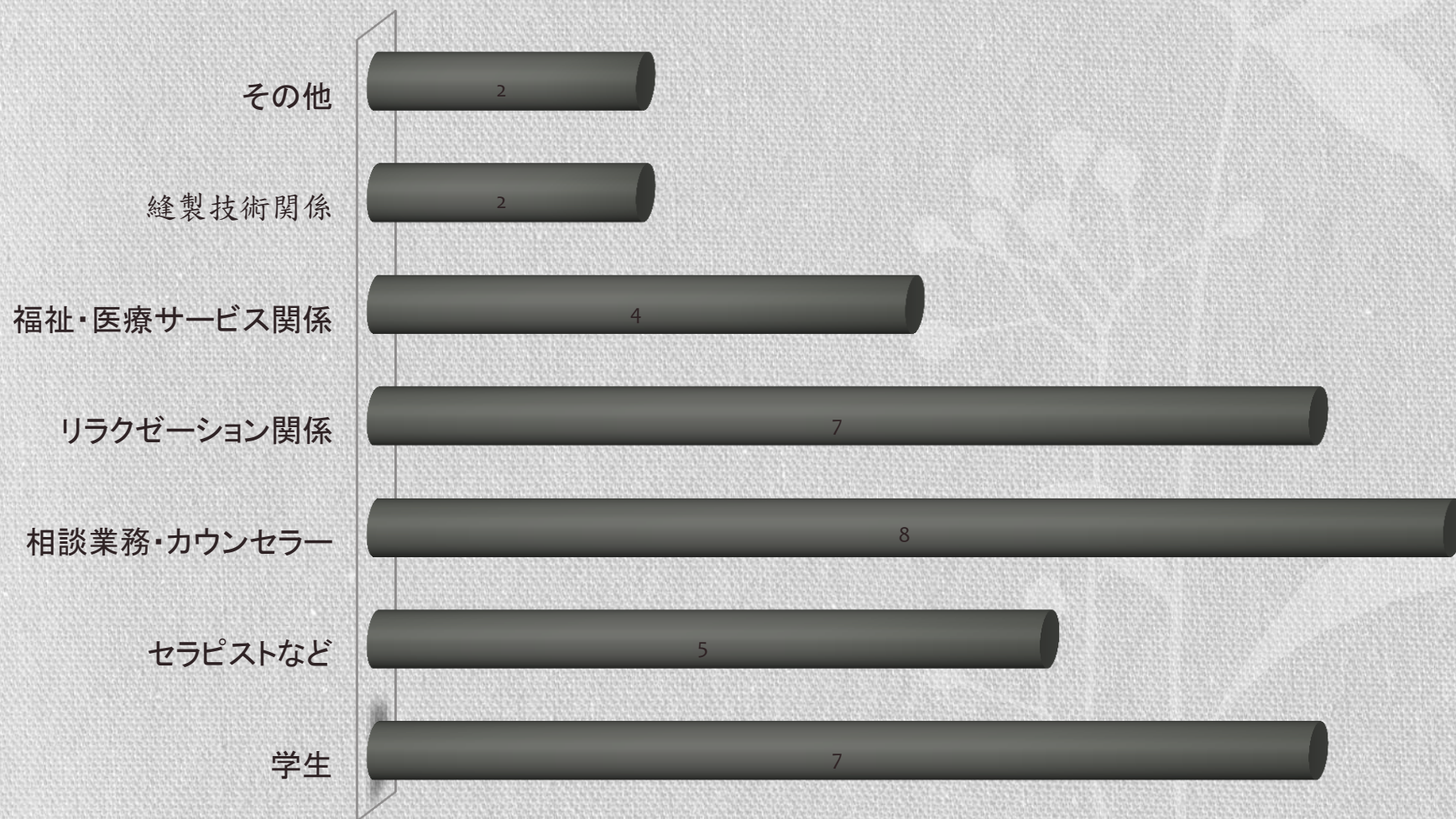
ボランティア派遣 応募経路



応募の動機



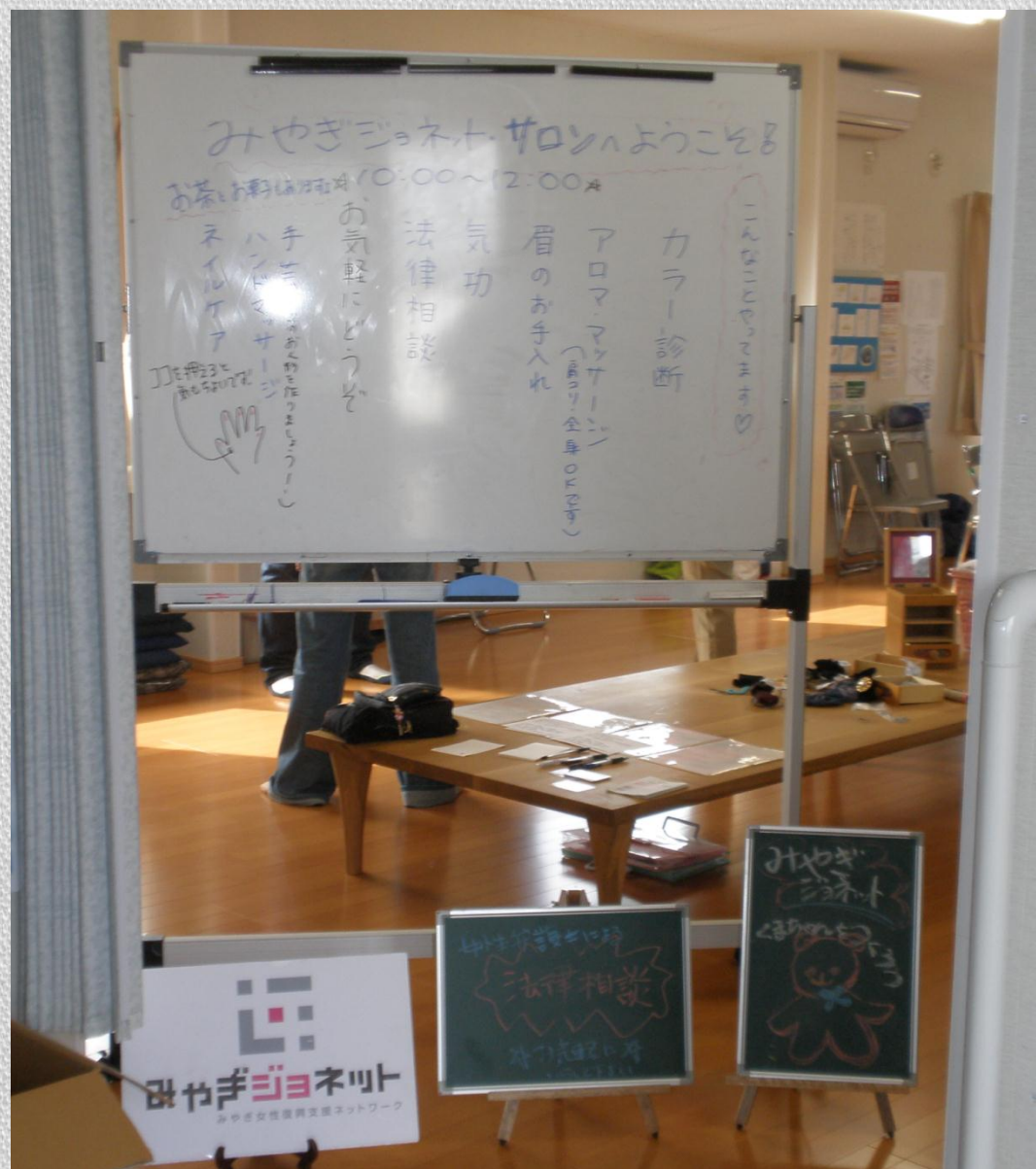
参加者の背景



参加希望者の企画内容

- カウンセリング
- 女性相談
- メークアップ
- ハンドマッサージ
- アロマセラピー
- ネイルケア・フットケア
- 整体 ヨガ・呼吸法・瞑想
- 健康相談・運動指導
- 縫製技術指導

サロン入り口



サロン風景



集会所入り口



ジョネットサロンに参加して 1

- 「軍手で人形を作る、という手芸を行ったのですが、参加者の中で津波に流されたお孫さんをイメージしてお作りになった方がいらっしゃいました。一見すると楽しい作業が、その方にとっては大事なお孫さんの喪の作業になっていると思うと、人形を作るという作業がそれぞれのかたにとっての作業の意味がそれぞれ違うのと、人形を作ることで自分自身を癒したり、大切な人へ思いを表現したりという意味のある作業だと実感致しました。」
- 地震の日の様子を話し続ける方、体の痛さを訴えられる方、仕事をし、子育てをし、なかなか自分の時間を持ってない40代の女性、「おしゃれをしてどうする」DV発言っぽい夫の言葉もありました。気持ちを出さない小さい子、かまって欲しそうな小学校高学年の子などと接しました。



ジョネットサロンに参加して 2

- 大震災後初めてボランティアに参加させていただきました。私は主に避難所で生活されている方々(小学生からお年寄りまで)にマッサージをしながらお話を伺う活動をしました。皆さん肩こりが酷くて手足が冷えている人が多く、かなり疲れが溜まっているように思いました。腰痛や膝の痛みを訴える人、睡眠剤をのまないで眠れない人、体重が4~5kg痩せた人たちのお話も伺い、避難所での過酷な生活が限界に達していることを想いました。一刻も早い環境の整備が求められています。が、多くの人々の継続的な物心両面の支援も必要と考え、友人、知人に状況を伝えたいと思います。
- 仮設住宅ではお声かけもあり、多くの方が参加してくださいました。遠方から出向くので、もっともっとたくさんの方に体験して欲しかったなあの思いと、一日に2箇所の訪問だと思っていたので1カ所で終わったことも、残念でした。参加する側にとっては、一杯やったという実感が欲しいんだと思います。次回参加させていただくときには、ぜひ2泊3日でたくさんの方所を回りしたいと思います。



ボランティアを終えて 1



- 避難所の空気、女性と子どもたち、石巻や女川の風景にふれて、福岡に帰っても様々な思いが浮かんで消え・・・自分の日常が変わったのを感じます。東北の天気やニュースが毎日気になります。
- みやぎジョネットの皆さんの温かく真剣な支援、必死の思い、避難所でお会いし、お話を伺った方の「このままでは終わらない」という強い意思・・・返って私の方がエネルギーをいただきました。今、地震後のさまざまな問題、いざこざ、将来への不安などが渦巻いているのでしょうか。サロン活動の大切さを知りました。
- 冬期は募集が締め切りであれば、残っているハーブバームは、どうぞ、配って使ってください。寒いと肩が凝ります。肩などに塗るだけで、す～として香りもリラックスできます。またお声掛けください。そして皆様のお力に少しでもなれればと、思います。

ボランティアを終えて 2

- 2011年8月13日。被災から5カ月後の宮城県に足を踏み入れました。メディアで報道されていることをいかに疑似体験し、他人事のように済ませていたかを反省しました。海岸線の町が壊滅している様子に、戦後の日本が思い浮かび上がりました。そこで暮らしていた人々の深い悲しみや怒りは、そこに暮らしていた人々にしか分からないのだと痛感しました。何事もなかったかのように寄せては返す波を見て、決して自然の脅威を決して侮ってはいけない、自然と共存していく道を歩まなければいけないと感じました。
- 本当のボランティアは、今始まったばかりです。今、被災地の状況を身の回りの子供達に伝えるため、写真や新聞記事を取り入れた本をつくっています。また、今回の経験を活かした次につながるアクションを考えています。被災地のことはもちろん、日々変わりゆく出来事から目を背けず、仲間と手を取り合い、どんどん情報発信をしていきたいです。



ボランティアを終えて 3

- 私たちの住む地域は、震災へのボランティアをしたい方は多いと思うのですが、東北に縁のある方が本当に少なく、募金にしても実際ボランティアに現地に行ったという人はほとんど聞かないのです。そのため自然に、遠い場所の話と思われがちな傾向があるように感じるのです。私たちが今回行ったことを少しでも周りに知らせたいですし、それが役目だと思っています。今後もこういった活動があればぜひ参加させていただきたいと思っています。
- このボランティアを通して、自分の目で見なくてはわからない被災の状況、そしてそこで暴力を乗り越え、暮らすたくましい女性たちに出逢うことができた。正直ボランティアのコーディネーションはあまりよいとは言えないけれど、みやぎジョネットそしてハーティ仙台のミッション、東北のひとりひとりの女性のエンパワーメント(女性たちは自分自身を取り戻すこと)が実現し、ひいては世界の女性への暴力防止につながるよう今自分にできることをしていきたい。



2011年8月 石巻港中学校